

「東アジアジュニアワークショップ参加報告書」

京都大学文学部 4年 (氏名) 浅井飛鳥

① 学習成果

ここでは、今回のワークショップが私の学問的な面にどのような影響を与えたのかについて述べる。今回のワークショップは、大きく二つの影響を私に与えた。日本社会に対する批判的視点の獲得と、研究のモチベーションの上昇である。

・ 批判的視点について

今回のワークショップを通して、私は日本社会をアジアの中に位置づけ、日本の社会現象についてより広い視点から考えることができるようになった。

以前は他の国の社会がどのようなものかを知る、体感する機会が全くなかった。日本の社会についてしか知らなかった。そのため、日本の社会問題や制度に対して深い疑問を抱くことはなかった。

だが、フィールドワークを通して他国の社会を体感し、海外の学生と自国の社会について意見を交わす中で、日本において当たり前だと考えていた制度や文化、社会問題が海外では異なるということに気づいた。そして、日本社会に対して今まで抱くことのなかった疑問や関心が生まれた。例えば、大学での専攻と将来の職種の関係である。私が「就職先が決まった」と話した際に、ソウル大学、台湾大学の学生は決まってこんな質問をした。

「あなたの専攻とその職種はどういう関係があるの？」

そして私は決まって、それほど関係がない、と答えた。彼らは驚いていた。大学での専攻と職種がほとんど関係しないことを私は当たり前だと考えていた。しかし、韓国、台湾においては大きく関係するのである。この出来事を通じて、日本の大学の存在意義の特殊性、産学連携の特殊性に気づくことができた。

今回のワークショップを通して、アジアの他の国と日本の状況を比較することができるようになり、日本の社会状況、社会制度を批判的に眺めることができるようになった。研究の関心の範囲が広がり、一つ上の視点に立って日本社会を眺めることができるようになった。この点において東アジアジュニアワークショップは非常に有意義であった。

・ 研究のモチベーションの上昇

今回のワークショップを経て、もっと社会学を追求したいと思えるようになった。理由は二つある。ひとつは、上記のように社会学における批判的視点を得たことにより、社会学のおもしろさに気が付いたからである。

二つ目は、能力と志の高い仲間を沢山得ることができたからである。共に高めあう仲間がいることは、モチベーションの上昇に大きくつながる。

私が海外の学生（韓国と台湾の学生）の尊敬する点は三つある。一つは、彼らが本当によく勉強する点である。二つ目は、社会に対して高い関心を持っている点である。そして最後に、自分の意見を

しっかり持っている点である。このような尊敬できる仲間を沢山得られたことで、研究に対するモチベーションが大きく高まった。

② 海外での経験

私は今回のプログラムにおいて、はじめて海外の人と深く関わるという経験をした。そこで一番感じたことは、話すための英語の勉強がかなり必要だ、ということである。韓国と台湾の学生と意見を交わす、生きた議論をする場面において、自分に英語で意見を伝える力が不足していることに気が付いた。

③ プログラム内容

・ フィールドワーク

1~3 日目がフィールドワーク。ホスト側が班を作り、班単位で行動した。京大、ソウル大、台湾大が均等に分かれるように組まれた。訪れる場所が多く、かなりハードなフィールドワークであった。しかし、どの場所も韓国社会の特徴が色濃く反映されたもので、韓国社会を理解する（国民性・文化）のにとっても有意義であった。上でも書いたが、日本社会を相対的に眺めるために、とても大事な経験であった。

さらに、班のメンバーと互いの国の文化や社会問題について意見を交わすことができた。大変有意義だったが、自分の英語力や社会に対する関心をもっと高めればさらに良い経験になっただろう、と悔やまれる部分もある。このプログラムに参加を考えている人には是非発表以外の事前準備についても力を入れていただきたいと思う。

・ 研究発表

フィールドワーク後の4, 5日目に研究発表は行われた。発表時間が20分、質疑応答が10分与えられた。皆、フィールドワークが終わった後も毎晩、先生と一緒に発表準備と練習を行っていた。

自分の発表に関してだが、一番の感想はもっと早め早めの準備を心がければよかった、という点に尽きる。私は、研究も英語での発表もまともに行ったことがなかったため躓くことが多かった。そのため、準備が後手に回ってしまった。一人で悩んでも道は開けないので、先生方の力を存分にお借りすることを勧める。

反省すべき点は山のようにあるのだが、良かった点もちろんある。ひとつは、国際的な場で英語を用いて発表・質疑応答をする度胸がついたことである。一度あの場に立ち、発表をするということは、結果の良い悪いに関係なく価値のあることであった。二つ目は、今後の研究の参考になる方法や知見がたくさん得られたことである。ソウル大学・台湾大学の学生は英語・研究のレベルが非常に高く、参考になる点が多くあった。

① 進路への影響について

私は既に就職先が決まっている。海外で働く可能性があり、私もそれを望んでいる。今回のワークショップを通して、海外で働きたいという思いはより強められた。私の学生生活は残り少ないが、残りの過ごし方に対しても今回のワークショップが大きな影響を及ぼすと思う。今後は英語の勉強・国際的な視点を意識した研究に注力していきたい。